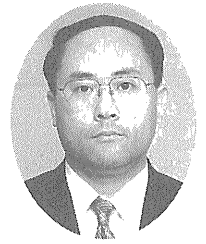


## づいそう

## 小さな子供を持つ親となって

星 隈 順 一



昨年末に2人目の子供が生まれ、私も二児の子供の父親となりました。上の子は3歳で、このくらいになると好奇心がますます旺盛となり、ちょろちょろして目が離せません。

そういう自分が幼少のころどうだったかと思返すと、それは両親に大変な心配をかけるほどちょろちょろしていたようです。それが原因でとんでもないハプニング(?)を起こしてしまったようで、お恥ずかしい話ですが、そんなエピソードを2つ紹介させていただきます。

5歳のころだったと思いますが、福岡県の英彦山に家族(両親、当時9歳の兄と2歳の妹)で山登りに行った時のことです。途中、鎖を使って登っていくような急な斜面もあるような登山道で、今考えれば小さな子供を連れていくには少し無茶な山登りだったと思います。それでも、なんとか山頂にたどり着き、みんなで休憩をしていたのですが、その時、どうしたわけか親の目を盗んで私はひとりで山頂付近をうろうろ歩きまわっていたらしく、その途中で急な崖に足を滑らせ、十数メートルほど頭から転落してしまいました。幸い転落箇所には木があり、枝に肩が引っ掛かるような形で止まりました。肩を強打し、瀕死の重傷だったらしいのですが、父親らがすぐに崖を降りてきて助けだしてくれたおかげで、一大事には至りませんでした。その事後、両親は山登りに小さい子を連れていったことをかなり後悔したようですが今自分自身が幼児の子供を持つ身となり、改めて自分が幼少のころの事故を思い起こすと、親の責任というのは重要だなと感じるところです。

もう1つは、7歳の頃だったと思いますが、乗車していた新幹線から私が突然いなくなるという推理小説

みたいなハプニングを起こしてしまいました。広島に家族旅行に行った帰り、満員の山陽新幹線に乗って小倉駅に向かっていました。私は父、兄といっしょに楽しみにしていた食堂車で食事をし、先に食べ終わったため、ひとりで母親の待つ席に向かって戻ったようです。ところが、その時に新幹線が小郡駅(今の新山口駅)に停車し、タイミングよくデッキを通りかけていた私は、駅のプラットフォームの看板にある小学校で習ったばかりの「小」の字が目に入りこみ、ここが小倉駅だと勘違いして、なんとひとりで下車してしまいました。それからが大変でした。私自身はすぐに小郡駅で鉄道公安官に保護されたのでいいのですが、食堂車から戻ってきた父親は私がいなことに気づき、慌てて満員の車内を探し、車掌さんにも手伝ってもらって行方を追ったようです。しかし、数十分探しても私が見つからず大きな事件、事故に巻き込まれたのではないかという壮絶感が漂い始めていた時小郡駅から車内の車掌さんに無事保護の連絡が入りました。結局、事なきを得たのですが、連絡が入るまでの数十分間は、やはり両親は最悪の事態が頭をよぎったとのことでした。私は結局とんでもない大迷惑をかけたことになるのですが、前述した英彦山からの転落事故よりも、怪我はなかったけども新幹線から突然いなくなった時の方が極限の心配状態だったと今でも話しをしてくれます。

いずれの話も、今となっては笑い話ですが、子供はいつどういう行動をとるかわからないということをも自分自身が身をもって示した形となっており、幼少の頃の苦い経験をいい形で今後の子育てに役立てていければと思っているところです。

一ほしくま じゅんいち 国土交通省総合政策局建設施工企画課課長補佐一